

恐るべし マラソン月間 一ヶ月で120Kmを走った人も



10月一ヶ月間は「マラソン月間」と銘打ち、朝の活動や、20分間の業間休み時間を使って校舎周りの周回コースを、自分の意思で走り込み、体力向上に励みました。登校日数的には20日間ほどですので、校庭トラックの周回とは異なり、そう簡単に100周達成の児童は出ないだろうというのが、計画当初時の想定でした。ところが100周達成児童に発行する「がんばり賞」のミニ賞状授与者は36人にも達し、中には三回も表彰式に登場した児童もいました。一周約400mのコースですので、それを300周。ということは120Kmを走り込んだということになります。恐るべき鉄人、治田の子。

ふれあい夢フェスタ19' 超限定の「治田米」完売



地域の皆様に物品提供いただき、色とりどりの風船が浮かぶ体育館。10月26日は各学年PTAの模擬店を中心に、大盛況の半日となりました。お小遣いを握りしめて、目をキラキラさせて、欲しいものを買う子どもの姿を見守るPTA会長はじめとする役員の皆様。会長にはヘリウムガスが超品薄な中、調達にご尽力いただきました。先月号でお知らせした「もち米」治田米140Kgも完売いたしました。ありがとうございました。

はやくも ウインター・スポーツ満喫 at M-WAVE

立冬から四日後の11/12(火)、2、3年生は長野冬季オリンピックが開催された競技施設でスケートをたっぷりと楽しみました。多数の保護者の皆様に、ボランティア補助員としてご参加いただき、スケート靴の装着等のご支援のおかげで、早めに氷上に立つことが出来ました。歩行の基本、安全な転び方を学び、11時過ぎにはコースにデビュー。たちまち、氷の上をすいすいと滑りだし、周回を重ねる子ども達。50周以上した児童もいました。痛い思いをして転んでも、立ち上がっては、滑り出し、再び転び、また立ち上がって滑り出す。これはまさに七転び八起の図ではないかと、子ども達のたくましさ、諦めずに頑張る子ども達の姿に感動した日となりました。更に…

学校に帰ってきましたら校長室の机の上にアルミホイルに包まれた焼き芋が一つ届けられていました。落ち葉を集めて焼き芋大会を開催した1年生からの裾分け。甘くておいしいお芋を食べて、氷上滑走の疲労はたちまち回復しました。



ふるさとの砂防事業に学ぶ 荇沢川上流の石堰堤見学

長野県千曲建設事務所及び長野県砂防ボランティア協会のレクチャーを受け、4年生が、佐野川支流、荇沢川(いざわがわ)上流の石堰堤(いしえんてい)を見学に行きました。この大規模な防災事業は、明治14年9月14日の佐野川決壊がふるさとにもたらした災害により、三年がかりで実施されたものです。明治17年に完成した7号堰堤と3号堰堤を間近で見学し、当時の砂防事業の規模の大きさを実感し、現在まで変わらない防災、減災に向けた取り組みについて考えることが出来ました。



職員異動のご報告

- 年度の途中ではありますが、10月末付けで、本校にて2016年4月より三年半お勤めいただいた吉松特別支援教育支援員が殖生中への異動となりました。お勤め最終日となったマラソン大会の日には、子ども達と一緒にコースを走ってくださり、最後まで本校の子ども達を支えてくださいました。新任地での活躍を祈念いたします。